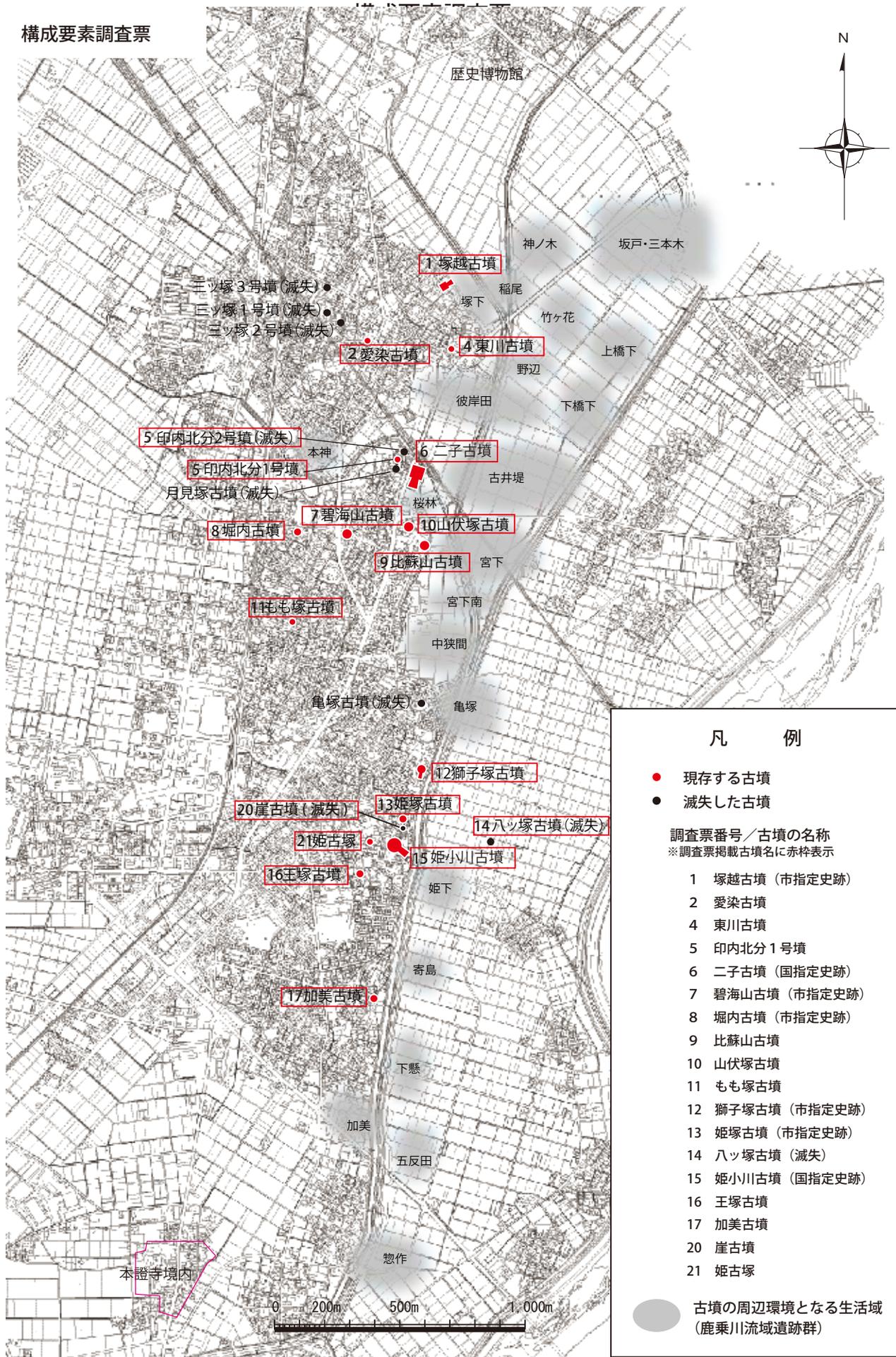


資料編

桜井古墳群構成要素調査票	-----	1
現況図面	-----	20
道路交通網図	-----	20
地質図・河川図	-----	21
都市計画図	-----	22
法適用現況図	-----	23
公園分布図	-----	24
公共施設分布図	-----	25
文化財分布図	-----	26
社寺等分布図	-----	27
景観資源分布図	-----	28
地域資源分布図	-----	29

構成要素調査票



構成要素調査票

番号	1	名称	塚越古墳 ^{つかごし}
遺跡の概要	古墳の墳形	前方後円（方）墳	
	築造時期	古墳時代前期後半（4世紀中葉）	
	古墳の規模	墳丘長 42 m、後円（方）部径（長） 20 m、後円（方）部高 5 m、前方部長 22 m、前方部高 3 m。墳丘復元した場合全長 45 m以上となる可能性がある。	
	埋葬施設	発掘調査結果からは主体部等は未確認だが、副葬品が出土していないので、木棺直葬・粘土床等の可能性があり。	
	出土遺物	紡錘車形石製品 1 点、鉄鋸 2 点、鉄鏝 1 点、小型丸底鉢などが出土	
	指定状況	昭和 36 年（1961）、市指定史跡	
自然環境	立地	碧海台地の東縁に位置する。付近の標高は 13 m、沖積低地水田面との比高差は 4～5 m。願力寺庫裏の裏手にある。	
	動植物	墳丘上にマツ、カエデ、ツバキ、段丘斜面に竹林	
	景観	古墳が竹木に囲まれ、見通しがきかない。北東側の竹林の向こうに西鹿乗川流域の農地景観が広がる。農地側からはまとまった斜面緑地の見通しがきく。	
社会環境	土地利用	願力寺境内地。寺院周辺は道路が狭い集落地。北東側に竹林が茂り、その向こうに農地が広がる。	
	土地所有	願力寺。隣接する竹林は所有者が異なる。	
	土地利用規制	市街化調整区域 埋蔵文化財包蔵地：塚下遺跡 農用地区域：古墳北東側の農道より北側は青地、南側は白地	
	接道状況	直接古墳に至る道はない。寺院の庫裏など生活空間を通り抜ける必要がある。	
	便益施設・保存施設	古墳の説明看板。歴史の散歩道誘導看板：願力寺入口に設置されているが、寺院内の誘導がないため、古墳にたどりつくことが難しい。	
	調整が必要な施設	願力寺庫裏と西側の住宅が墳丘に迫る。宅地境のフェンスが墳裾を削っている。古墳脇に手掘りの排水路が設置されている。	
その他	調査歴	昭和 24 年（1949）発掘、昭和 36 年（1961）市指定史跡。平成 4 年（1992）墳丘測量調査。平成 14 年（2002）墳丘周辺の補足測量調査	
	文献	「史跡二子古墳 範囲確認調査報告書」2007、安城市教育委員会「桜井古墳群概要報告」2014、安城市教育委員会	

構成要素調査票

番号	2	名称	<small>あいぜん</small> 愛染古墳
遺跡の概要	古墳の墳形	円墳	
	築造時期	横穴式石室でないとするれば、古墳時代前半期の古墳であると考えられる。詳細は不明。	
	古墳の規模	現在は南北 24 m、東西 15 m、高さ 2 m である。墳頂部はかなり削られている。直径約 24 m、高さ 6 m ほどの円墳と想定される。	
	埋葬施設	不明	
	出土遺物	不明。岩瀬和市氏が書いた由緒書きによると、濃尾地震（明治 24 年）の際、墳頂部にあった堂が全壊したため、墳丘を 4 m ほど掘り再建した。その際に大刀、刀剣類が出土したが、それは現本堂下に埋納したと伝わる。	
	指定状況	未指定	
自然環境	立地	碧海台地の東端から 300 m 以上奥まった位置にあるが、北から入り込む開析谷の最奥部にあたると思われる。周囲の標高は約 13 m である。墳頂部に愛染明王堂が建てられている。	
	動植物	墳丘上に樹木、植栽	
	景観	市街地景観が広がる。	
社会環境	土地利用	明王堂境内地で南側に道路を介して薬師堂が建つ。東側は駐車場を介して県道安城桜井線が通っている。西側と北側が工場敷地となっている。	
	土地所有	墳丘は民地、薬師堂は民地と市有地	
	土地利用規制	市街化区域、第 1 種住居地域	
	接道状況	南側に道路が接している。	
	便益施設・保存施設	なし	
調整が必要な施設	明王堂（老朽化して鉄製支柱で支えられている）、参道、鳥居の柱、石段（手すり）、コンクリート擁壁		
その他	調査歴	平成 12 年（2000）墳丘測量調査	
	文献	「史跡二子古墳 範囲確認調査報告書」2007、安城市教育委員会 「桜井古墳群概要報告」2014、安城市教育委員会	



墳丘を南東よりのぞむ



墳丘と周辺の宅地

構成要素調査票

番号	4	名称	<small>ひがしかわ</small> 東川古墳
遺跡の概要	古墳の墳形	不明	
	築造時期	不明	
	古墳の規模	現状では南北約9 m、東西11.5 mの長方形で、高さおよそ0.9 mである。上部は平坦で、北側の台地とほぼ同じ高さとなっている。	
	埋葬施設	不明	
	出土遺物	不明	
	指定状況	未指定	
自然環境	立地	碧海台地の東縁、舌状台地の南側に位置する。周囲の最高所は標高13 m前後で、古墳は一段低いところに、南に向かって突き出すように残っている。	
	動植物	墳丘上に樹木。	
	景観	農地と宅地が混在する集落景観である。	
社会環境	土地利用	草地、周辺は農地。	
	土地所有	民地	
	土地利用規制	市街化調整区域	
	接道状況	北側に未舗装の細い道が通っている。	
	便益施設・保存施設	なし	
	調整が必要な施設	北側の道路	
その他	調査歴	なし	
	文献	「史跡二子古墳 範囲確認調査報告書」2007、安城市教育委員会 「桜井古墳群概要報告」2014、安城市教育委員会	



西側からの全景



南側からの全景、墳丘が削られている

構成要素調査票

番号	5	名称	<small>いなきたわけ</small> 印内北分1・2号古墳
遺跡の概要	古墳の墳形	不明、2号古墳は滅失か。	
	築造時期	1号古墳は、横穴式石室であるなら古墳時代後半期の古墳であるが、確証はない。	
	古墳の規模	1号古墳は現状では南北約10m、東西約10m、高さ1.7mの古墳とされる。墳頂部は広い平坦面で中央部が0.5mほど窪む。	
	埋葬施設	1号古墳の墳頂部中央に花崗岩が1枚露出していたとされ、現状でも花崗岩数点がみられる。また、墳頂部の窪みから横穴式石室の存在が想定されるが、詳細は不明である。	
	出土遺物	1号古墳が明治初年に盗掘され、刀剣・玉類が出土したことが伝わる。所在は不明	
	指定状況	未指定	
自然環境	立地	碧海台地の東縁、堀内川の形成した開析谷に面した台地上にある。二子古墳から北西に約80m離れている。台地上の標高は11～12m、直下の水田との比高差は約2mである。	
	動植物	—	
	景観	宅地と農地が混在する集落景観である。新幹線がよく見える。	
社会環境	土地利用	1号古墳は墓地、草地となっており、周辺は宅地と農地が広がる。	
	土地所有	民地	
	土地利用規制	市街化区域、第1種住居地域	
	接道状況	1号古墳は墓地の敷地が西側、南側に接道している。	
	便益施設・保存施設	なし	
その他	調整が必要な施設	墓地	
	調査歴	平成22年(2010)に1号古墳南側で個人住宅建設に伴う確認調査	
文献	「史跡二子古墳 範囲確認調査報告書」2007、安城市教育委員会 「桜井古墳群概要報告」2014、安城市教育委員会 「資料編 桜井町の古墳」1959、桜井町文化財保護委員会		



上部に墓石が並ぶ第1号古墳



墓地からの新幹線の眺め

構成要素調査票

番号	6	名称	ふたご 二子古墳
遺跡の概要	古墳の墳形	前方後方墳	
	築造時期	古墳時代前期前半（3世紀後半から4世紀初頭）ないし、古墳時代前期中葉（4世紀前葉）	
	古墳の規模	全長68.2 m、後方部長36.4 m、前方部長31.8 m、後方部幅36.2 m、前方部最大幅29.6 m、後方部高6.97 m、前方部高4.27 m。後方部の北側裾に確認された幅11.5 mの溝は周溝の可能性があり。	
	埋葬施設	不明	
	出土遺物	不明。桜林遺跡の溝状遺構から弥生時代終末期から古墳時代前期の土器、二タ子遺跡の溝状遺構から線刻を施した土器が出土。	
	指定状況	昭和2年（1927）、国指定史跡	
	自然環境	立地	鹿乗川流域の沖積低地に展開する集落を見下ろすように碧海台地の末端部に築かれている。台地の末端部の標高は12 m前後で、集落の展開する沖積低地との比高差は約4 mになる。
動植物		墳丘上にマツ、クスノキ、ムクノキ、コナラ、ウルシ、地被植物としてコグマザサが植栽され、一部にテラピアが自生する。	
景観		北東を東海道新幹線が通過する。新幹線から古墳が近く見える。東側に鹿乗川流域の田園景観が開け、遠景に矢作川対岸の山地が広がる。東側農地からは、古墳全体の遠景が望める。	
社会環境	土地利用	指定地は山林、草地。西側は宅地、南側はゲートボール場(市有地)、東側は農地となっている。	
	土地所有	墳丘部は桜井神社、墳丘周囲は市	
	土地利用規制	市街化調整区域 埋蔵文化財包蔵地：東側が市指定史跡二タ子遺跡、南側が桜林遺跡 ※東側農地は白地	
	接道状況	南側に舗装道路（市道）が接道し、古墳への登り口が存在する。東側は未舗装道路（赤道）に接している。古墳の西側は県道で、指定地との高低差がある。	
	便益施設・保存施設	標識、説明板、囲柵、境界杭（1箇所）。隣接するゲートボール場に駐車場がある。	
	調整が必要な施設	桜井天神社古址の標柱。東側の赤道、水路と農地。西側の県道・南側の市道・水路。北側で古墳に接する堀内川（明治用水）と東海道新幹線線路敷。	
その他	調査歴	平成14年（2002）試掘、平成15年（2003）範囲確認調査。桜林遺跡は平成6～7年（1994～1995）に発掘、二タ子遺跡は昭和36年（1961）に発掘、平成18年（2006）に試掘。	
	文献	「史跡二子古墳 範囲確認調査報告書」2007、安城市教育委員会「桜井古墳群概要報告」2014、安城市教育委員会	

構成要素調査票

番号 7	名称 <small>へっかいざん</small> 碧海山古墳	
遺跡の概要	古墳の墳形	円墳か
	築造時期	不明
	古墳の規模	現状では直径 24 m、高さ約 4.5 mの円墳と想定される。墳頂部は 6 × 10 mほどの平坦面になっており、かつて碧海明神の社殿が存在した痕跡と想定される。四方を道路と宅地に切り取られている。北側斜面が墳頂近くから削られている。
	埋葬施設	横穴式石室ではない可能性があるが、詳細は不明
	出土遺物	不明
	指定状況	昭和 40 年（1965）、市指定史跡
自然環境	立地	碧海台地を開削する堀内川の右岸の台地上に立地する。付近の標高は 11 mである。西 140 mに堀内貝塚、同じく 200 mに堀内古墳、東 300 mに比蘇山古墳、北東 350 mは二子古墳がある。
	動植物	墳丘上に竹林とマツ、クヌギ、ツバキ、カシ
	景観	墳丘上から宅地景観が広がる。
社会環境	土地利用	周囲を宅地に囲まれている。西側は県道の広い歩道となっている。
	土地所有	民地
	土地利用規制	市街化区域、第 1 種住居地域
	接道状況	西側が県道安城桜井線、南側と北側が道路に接している。
	便益施設・保存施設	標柱、境界標 1 箇所、古墳の説明看板
	調整が必要な施設	北東隅に登り口の階段。道路際に蓋付き側溝。県道側に低いコンクリート擁壁。隣地車庫が古墳に食い込むように設置されている。
その他	調査歴	平成 12 年（2000）墳丘測量調査
	文献	「史跡二子古墳 範囲確認調査報告書」2007、安城市教育委員会 「桜井古墳群概要報告」2014、安城市教育委員会



南側からの墳丘全景



左側（北側）は墳丘が削られ凹んでいる

構成要素調査票

番号	8	名称	堀内古墳 ^{ほりうち}
遺跡の概要	古墳の墳形	円墳か	
	築造時期	不明	
	古墳の規模	現状では、南北 24 m、東西 21 m。発掘調査では直径 23 m の円墳に復元され、高さ 4.5 m ほどとなる。墳頂部は直径 12 m ほどの平坦地になっており、天神社造営のため大幅な改変を受けているようである。墳丘周囲には周溝の可能性のある溝がある。	
	埋葬施設	不明	
	出土遺物	不明	
	指定状況	昭和 40 年（1965）、市指定史跡	
自然環境	立地	碧海台地東縁から 500 m あまり中に入った地点にあり、堀内川の開析谷右岸の台地縁辺からも 100 m ほど離れている。堀内貝塚の立地する台地と本来は連続していたが、現在は間に切り通しの道路が作られている。古墳周辺の地山面の標高は 14 m 前後と考えられる。西 170 m にある碧海山古墳との間には、小さな開析谷が入っていたようである。	
	動植物	墳丘上にウメ、イチョウの植栽	
	景観	周囲に住宅地の景観が広がる。	
社会環境	土地利用	神社境内地となっており、周囲を宅地に囲まれている。	
	土地所有	民地。南側の集会場は堀内町町内会の所有地	
	土地利用規制	市街化区域、第 1 種住居地域	
	接道状況	境内地南側が集落内の狭い道路に接している。	
	便益施設・保存施設	標柱（天満山古墳）、古墳の説明看板。敷地南側に集会場、駐車場、児童遊園地がある。	
その他	調査歴	平成 12 年（2000）墳丘測量調査。平成 17 年（2005）古墳西側宅地で工事立会い調査。平成 22～24 年（2010～2012）市道桜井赤松線道路拡幅工事等に関わる発掘調査及び墳丘確認調査	
	文献	「史跡二子古墳 範囲確認調査報告書」2007、安城市教育委員会「桜井古墳群概要報告」2014、安城市教育委員会	
			
		南側からの墳丘全景	墳丘上から周囲の宅地をのぞむ

構成要素調査票

番号	9	名称	ひそやま 比蘇山古墳
遺跡の概要	古墳の墳形	前方後円（方）墳か。『資料編 桜井町の古墳』では桜井神社本殿に後円部、拝殿に前方部があったと伝わる。その中で古老の話として、本殿改築時に後円部を平坦にしたことを伝える。	
	築造時期	不明	
	古墳の規模	二子古墳と同等の全長 60 mほどとする見解に従う。	
	埋葬施設	不明。平成 11 年（1999）の本殿を囲う塀の拡張工事で、西側から拳大の川原石 100 個以上が見られた。礫床等の主体部が破壊され埋められた可能性が考えられる。	
	出土遺物	不明	
	指定状況	古墳は無指定。墳丘上の桜井神社本殿は市指定建造物、桜井神社は市指定史跡。	
自然環境	立地	桜井神社本殿は、碧海台地東縁の小高い地点にあり、西は北から開析谷が入り込んで、北に向かって突出した小さな舌状台地の最高所となっている。本殿基礎部分で標高約 17.5 m。西の開析谷内には水が湧いており、桜井弁財天社が祀られている。	
	動植物	墳丘上にツバキ、シイ、ムクノキ、ヤブニッケイ	
	景観	桜井神社東側に鹿乗川流域の田園景観が広がるが、一部で住宅が建設されつつある。西側は市街地景観が広がる。	
社会環境	土地利用	神社境内地となっており、東側が農地、西側は宅地である。	
	土地所有	桜井神社	
	土地利用規制	市街化区域、第 1 種住居地域	
	接道状況	神社の南側正面入口、ほか市道への進入路が数箇所ある。	
	便益施設・保存施設	神社の指定文化財の説明板はあるが、古墳については記載なし。境内地内にトイレ、駐車スペースがある。	
	調整が必要な施設	桜井神社本殿、拝殿、社務所、石段	
その他	調査歴	平成 11 年（1999）墳丘測量調査	
	文献	「史跡二子古墳 範囲確認調査報告書」2007、安城市教育委員会 「桜井古墳群概要報告」2014、安城市教育委員会 「資料編 桜井町の古墳」1958、桜井町文化財保護委員会	



墳丘上の桜井神社



東側道路から墳丘方向を見上げる

構成要素調査票

番号	10	名称	<small>やまぶしづか</small> 山伏塚古墳
遺跡の概要	古墳の墳形	円墳か	
	築造時期	不明	
	古墳の規模	現在の墳丘は径7～8m前後、高さ1.3mである。聞き取り調査等による地形復元から直径18m、高さ3mほどの円墳と想定されるが、古墳である確証はない。	
	埋葬施設	不明	
	出土遺物	不明	
	指定状況	古墳としては未指定。山伏塚と呼ばれる塚と、その北側の墓地及び宝篋印塔・五輪塔類、近世から近代にかけての野田家の墓塔全体が「山伏塚及び野田家墓碑」として2003年に市史跡指定。	
自然環境	立地	碧海台地の東縁、比蘇山古墳の西側に入り込む小さな開析谷に面した位置にある。周囲の標高は12m前後である。	
	動植物	墳丘上に少量の樹木	
	景観	宅地と農地が混在する景観である。東側の解析谷の向こうに桜井神社の緑が見える。	
社会環境	土地利用	墓地。南側は農地、東側は樹林地	
	土地所有	民地	
	土地利用規制	市街化区域、第1種住居地域、南側農地は生産緑地	
	接道状況	北西側からの狭い進入路がある。接道していない。	
	便益施設・保存施設	市指定史跡の看板	
	調整が必要な施設	宝篋印塔・五輪塔類、近世から近代にかけての野田家の墓塔、古墳への進入路	
その他	調査歴	平成14年（2002）墳丘測量調査	
	文献	「史跡二子古墳 範囲確認調査報告書」2007、安城市教育委員会 「桜井古墳群概要報告」2014、安城市教育委員会	



山伏塚を墓所側から望む



墓地の背後に塚がみえる

構成要素調査票

番号 11	名称 もも塚古墳 ^{つか}	
遺跡の概要	古墳の墳形	円墳か
	築造時期	不明
	古墳の規模	現状は約 20 m四方の石垣に囲まれ、規模や墳形は不明である。
	埋葬施設	不明
	出土遺物	不明
	指定状況	未指定
自然環境	立地	碧海台地の東縁から 450 mほど奥まった位置にある。古墳の南側に西町支川の作る開析谷が細長く入り込んでおり、中狭間遺跡と亀塚遺跡との間で沖積低地に開いている。谷内の標高は 10 ～ 11 m、古墳周辺は 13.9 mで、比高差が 3 m以上ある。
	動植物	墳丘の南裾にイチョウの大径木（保護樹木の看板あり）
	景観	市街地景観が広がる。
社会環境	土地利用	境内地。社務所が墳丘に接して建っている。周辺は宅地。
	土地所有	民地
	土地利用規制	市街化区域、第 1 種住居地域
	接道状況	境内地の南側、北側、東側が接道している。
	便益施設・保存施設	歴史の散歩道看板
	調整が必要な施設	墳頂の八幡社、社務所、石段、石碑、燈籠。墳丘周囲の石垣、玉垣。
その他	調査歴	平成 16 年（2004）道路を挟んで北側で試掘調査
	文献	「史跡二子古墳 範囲確認調査報告書」2007、安城市教育委員会 「桜井古墳群概要報告」2014、安城市教育委員会
		
南側からの全景		

構成要素調査票

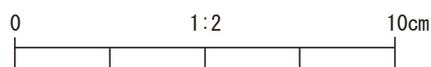
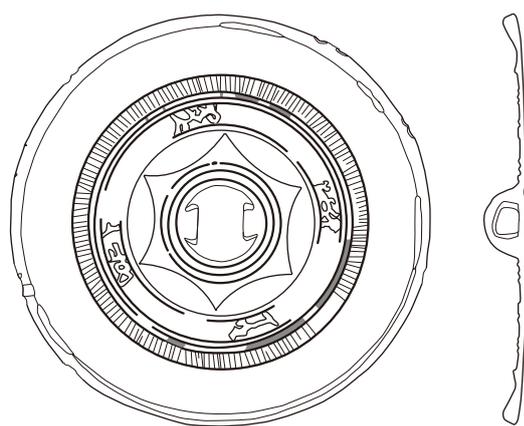
番号	12	名称	獅子塚古墳 ^{ししづか}
遺跡の概要	古墳の墳形	前方後円（方）墳。秋葉神社参道を作るために前方部を削り取ったと伝えられている。	
	築造時期	古墳時代前期後葉から中期前葉（4世紀後葉から5世紀初頭）	
	古墳の規模	現状では東西26m、南北28m、高さは約5mの後円（方）部が残る。下水道工事立会調査で墳丘の北西側と南西側に周溝とみられる溝状遺構が確認されている。	
	埋葬施設	不明	
	出土遺物	壺形埴輪らしき埴輪片	
	指定状況	昭和40年（1965）、市指定史跡	
自然環境	立地	碧海台地東縁が沖積低地に向かって小さく張り出した地点の、段丘崖に接して築かれている。付近の標高は11m前後である。墳頂部に秋葉神社が祀られている。段丘崖直下に現在の鹿乗川が流れる。	
	動植物	墳丘斜面にクスノキ、マツ、クヌギ、ムクノキ、ツバキ	
	景観	古墳周囲は宅地と農地が混在した景観である。東側に鹿乗川と流域の田園景観が広がる。	
社会環境	土地利用	神社境内地となっている。南側は東町公民館である。	
	土地所有	史跡指定地は民地、境内地も民地である。	
	土地利用規制	市街化区域、第1種住居地域 河川区域：一級河川鹿乗川 生産緑地：墳丘脇の農地	
	接道状況	境内地北側が接道する。墳丘東側と南側の道路は境内地である。東側に河川管理道からの進入路が設置されている。	
	便益施設・保存施設	標柱、古墳の説明看板、歴史の散歩道看板 公民館の屋外トイレ（施錠され使用不能）・駐車場	
	調整が必要な施設	墳丘上に秋葉神社、石燈籠、参道、玉垣、石段 墳裾東側に玉垣 墳丘南側に神社鳥居、標柱、石燈籠	
その他	調査歴	平成4年（1992）、秋葉社の玉垣設置工事の際、立会調査。平成13年（2001）墳丘及び周辺の測量調査。平成22年（2010）下水道工事立会調査	
	文献	「史跡二子古墳 範囲確認調査報告書」2007、安城市教育委員会 「桜井古墳群概要報告」2014、安城市教育委員会	

構成要素調査票

番号 13	名称 <small>ひめづか</small> 姫塚古墳	
遺跡の概要	古墳の墳形	方墳ないし円墳か
	築造時期	周溝とみられる遺構から古墳時代前期の遺物が出土しているが、詳細な時期比定は困難
	古墳の規模	現状の規模は南北 20 m、東西 18 m、高さ 3.75 m ほどである。墳丘の西側と南側で周溝とみられる溝状遺構が確認されている。墳頂は削平、墳丘の北東側も削り取られていると考えられる。
	埋葬施設	不明
	出土遺物	不明
	指定状況	昭和 40 年（1965）、市指定史跡
自然環境	立地	碧海台地の東端、段丘崖に接した地点に立地する。周囲の標高は約 13 m、段丘下の畑地との高低差はおよそ 3.5 m ある。南 100 m に姫小川古墳がある。
	動植物	墳丘上に樹木
	景観	宅地の中に畑が点在する景観が広がる。
社会環境	土地利用	南北が宅地、東西が畑である。
	土地所有	民地
	土地利用規制	市街化区域、第 1 種住居地域
	接道状況	北側に狭い道が通じる。
	便益施設・保存施設	標柱（墳丘西裾にあり目立たない）、古墳の説明看板、防護柵（ロープ）、危険表示サイン、歴史の散歩道誘導看板
調整が必要な施設	宝篋印塔（一部）、石製五輪塔、宅地境のフェンス	
その他	調査歴	平成 13 年（2001）墳丘及び周辺の測量調査。平成 20～22 年（2008～2010）古墳西側と東側で、墳丘範囲確認調査及び住宅建設に伴う発掘調査
	文献	「史跡二子古墳 範囲確認調査報告書」2007、安城市教育委員会「桜井古墳群概要報告」2014、安城市教育委員会

構成要素調査票

番号 14	名称 ^{やつか} 八ッ塚古墳	
遺跡の概要	古墳の墳形	円墳とされるが、既に滅失しており詳細は不明。
	築造時期	古墳時代前期後葉から中期前葉（4世紀後葉から5世紀初頭）
	古墳の規模	不明
	埋葬施設	石室を持つとの伝聞がある。
	出土遺物	倣製内行花文鏡1面（市指定文化財）。刀剣類、土器片が出土したと伝わるが、所在は不明。
	指定状況	—
自然環境	立地	碧海台地東方の沖積低地内に所在した。昭和30年代の土地改良工事により滅失。
	動植物	—
	景観	水田景観が広がる。
社会環境	土地利用	水田
	土地所有	民地
	土地利用規制	市街化調整区域、農用地区域
	接道状況	—
	便益施設・保存施設	なし
	調整が必要な施設	—
その他	調査歴	なし
	文献	「史跡二子古墳 範囲確認調査報告書」2007、安城市教育委員会 「桜井古墳群概要報告」2014、安城市教育委員会



八ッ塚古墳出土鏡

構成要素調査票

番号	15	名称	ひめおがわ 姫小川古墳
遺跡の概要	古墳の墳形	前方後円墳	
	築造時期	古墳時代前期中葉（4世紀中葉）	
	古墳の規模	墳丘長 65 m以上、後円径 38 m、後円部高さ 6.0～7.0 m、前方部長さ 27 m、前方部前端幅 19 m、前方部高さ 3.0～4.0 m、くびれ部幅 15.5 m。周溝と想定される溝が後円部の北側から南西側を部分的に巡る。	
	埋葬施設	不明	
	出土遺物	不明。周溝と想定される溝の最下層から古墳時代前期の土師器が少量出土。刀剣類、土器片が出土したと伝わるが、所在は不明。	
	指定状況	昭和2年（1927）、国指定史跡。平成24年（2012）隣接民地を追加指定。	
自然環境	立地	矢作川中流域西岸の沖積低地に面した碧海台地の東縁に立地する。基底部の標高は 12.5 m、水田面との高低差は約 4 mある。	
	動植物	墳丘上にシイ、カシ、クスノキ、クヌギ	
	景観	東側の住宅の間から、部分的に鹿乗川や水田を見渡す。墳丘に樹木が茂っており、あまり見晴らしがきかない。	
社会環境	土地利用	古墳は浅間神社境内地。周辺は市街化され宅地となっている。昭和47年から古墳の北東側が宅地開発されている。	
	土地所有	浅間神社	
	土地利用規制	市街化区域、第1種住居地域 保全地区（樹木）	
	接道状況	神社境内地の西側、南側、東側が接道している。	
	便益施設・保存施設	古墳の説明板、歴史の散歩道看板、指定地を囲む擬木の囲柵と植え込み。境内地に屋外トイレと駐車スペース、古墳北側に児童遊園がある。	
	調整の必要な施設	後円部：排水施設がないため墳丘の流出が著しく、平成20・21年に土嚢で応急処置をしている。一部地盤面で沈下がみられる。 浅間神社：コンクリートの土台が斜面際まで迫る。 石段：はらみがみられる。 燈籠、狛犬、溶岩、頌徳碑。 墳丘北東側の住宅：一部墳丘を削って擁壁が設置されている。墳丘崩落のおそれがある。	
その他	調査歴	平成4年（1992）墳丘測量調査。平成13年（2001）に補足測量調査。平成19年（2007）、21年（2009）範囲確認調査	
	文献	「史跡姫小川古墳 墳丘範囲確認調査報告書」2011、安城市教育委員会 「史跡二子古墳 範囲確認調査報告書」2007、安城市教育委員会 「桜井古墳群概要報告」2014、安城市教育委員会	

構成要素調査票

番号 16	名称 <small>おうづか</small> 王塚古墳	
遺跡の概要	古墳の墳形	円墳か
	築造時期	不明
	古墳の規模	現状は南北約 14 m、東西約 22 m、高さ 2.5 m ほどである。古墳周囲はかなり削られている。
	埋葬施設	不明
	出土遺物	不明
	指定状況	未指定
自然環境	立地	碧海台地の東縁から少し奥に入った位置にある。姫小川古墳との間に小さな谷が入り込み、その谷奥に立地している。付近の標高は 12 m 前後である。
	動植物	墳丘上に竹木
	景観	宅地と農地が混在する景観である。
社会環境	土地利用	墓地。周囲は宅地となっている。
	土地所有	民地
	土地利用規制	市街化区域、第 1 種中高層住居専用地域
	接道状況	北側に道路が接する。
	便益施設・保存施設	なし
	調整が必要な施設	階段、コンクリート擁壁、墳丘上に近世の墓石
その他	調査歴	平成 13 年（2001）隣地の住宅建設に伴う確認調査及び墳丘測量調査
	文献	「史跡二子古墳 範囲確認調査報告書」2007、安城市教育委員会 「桜井古墳群概要報告」2014、安城市教育委員会



墳頂が削られ墓が設けられている



登り口の石段とコンクリート擁壁

構成要素調査票

番号 17	名称 ^{かみ} 加美古墳	
遺跡の概要	古墳の墳形	円墳か。
	築造時期	不明
	古墳の規模	不明
	埋葬施設	不明
	出土遺物	不明
	指定状況	未指定
自然環境	立地	姫小川古墳から台地縁辺に沿って南に約 600 m、加美地蔵尊の祀られている祠の小高いところとされる。東側は段丘崖が比較的に残っており、現在の水田との比高差は 2 m 以上ある。
	動植物	墳丘上に植栽
	景観	三方を集落に囲まれているが、南側に向かって鹿乗川と田園の景観が開ける。
社会環境	土地利用	加美地蔵尊、墓地。周囲は宅地で南側は農地である。
	土地所有	墓地は円光寺、その他の部分は民地
	土地利用規制	市街化区域、第 1 種中高層住居専用地域。南側農地は生産緑地。
	接道状況	東側に道路が接する。南側に狭い道が通じる。
	便益施設・保存施設	なし
	調整が必要な施設	最も高い部分に地蔵堂があり、その周囲が一辺 7～8 m の石垣で囲まれている。石燈籠、石段が設置され、周囲が植栽されている。
その他	調査歴	平成 23 年（2011）に南側の個人住宅建設に伴う試掘調査を実施
	文献	「史跡二子古墳 範囲確認調査報告書」2007、安城市教育委員会 「桜井古墳群概要報告」2014、安城市教育委員会



墳丘上の石段と祠



墳丘上から東側をのぞむ

構成要素調査票

番号	20	名称	がけ 崖古墳
遺跡の概要	古墳の墳形	古墳ではない可能性が高い。	
	築造時期	不明	
	古墳の規模	不明	
	埋葬施設	不明	
	出土遺物	不明	
	指定状況	未指定	
自然環境	立地	姫塚古墳のすぐ南で、宅地と道路に削られ、墳丘と認識できない。	
	動植物	－	
	景観	宅地の中に農地が点在する景観が広がる。	
社会環境	土地利用	段丘の法面となっている。西が宅地、東が畑、南が道路である。	
	土地所有	市有地	
	土地利用規制	市街化区域、第1種住居地域	
	接道状況	南側に道路が接する。	
	便益施設・保存施設	フェンス	
	調整が必要な施設	隣地のコンクリート擁壁、南側の道路	
その他	調査歴	平成13年(2001)に墳丘測量調査、平成20年(2008)に墳丘範囲確認調査。平成22年(2010)に隣接地で個人住宅建設に伴う確認調査、平成24年(2012)に墳丘範囲確認調査を実施	
	文献	「史跡二子古墳 範囲確認調査報告書」2007、安城市教育委員会 「桜井古墳群概要報告」2014、安城市教育委員会	



斜面が崖古墳、背後の樹木は姫塚古墳



道路により削られている

構成要素調査票

番号	21	名称	ひめこづか 姫古塚
遺跡の概要	古墳の墳形	古墳ではない可能性がある。	
	築造時期	不明	
	古墳の規模	不明	
	埋葬施設	不明	
	出土遺物	不明	
	指定状況	未指定	
自然環境	立地	誓願寺南側の宅地内にある。	
	動植物	—	
	景観	宅地と農地の集落景観が広がる。	
社会環境	土地利用	宅地	
	土地所有	私有地	
	土地利用規制	市街化区域、第1種住居地域。	
	接道状況	私有地につき、道路から直接出入りができない。	
	便益施設・保存施設	標柱	
	調整が必要な施設	宅地	
その他	調査歴	なし	
	文献	「桜井古墳群概要報告」2014、安城市教育委員会	

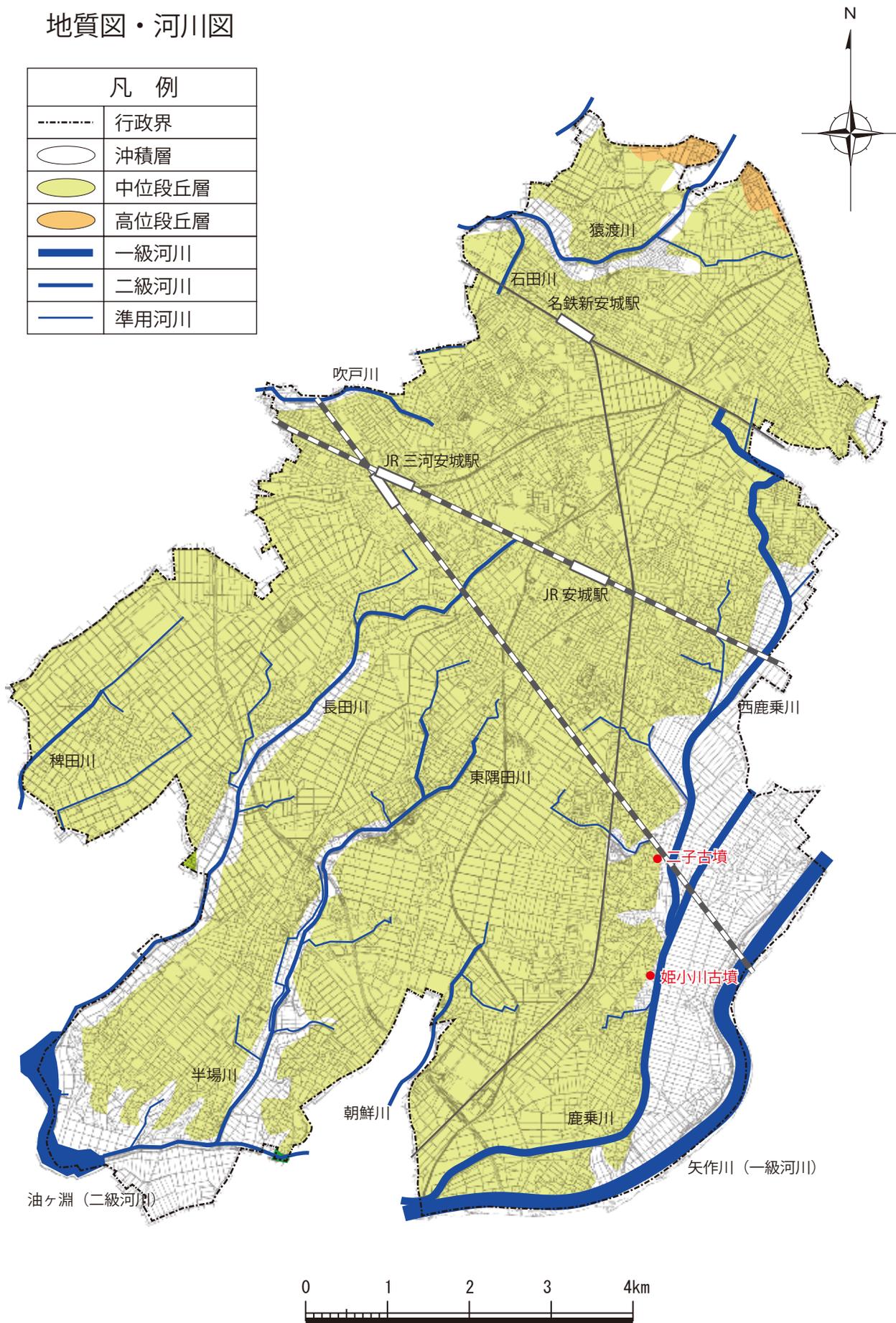


庭の一角に塚が保存されている

現況図

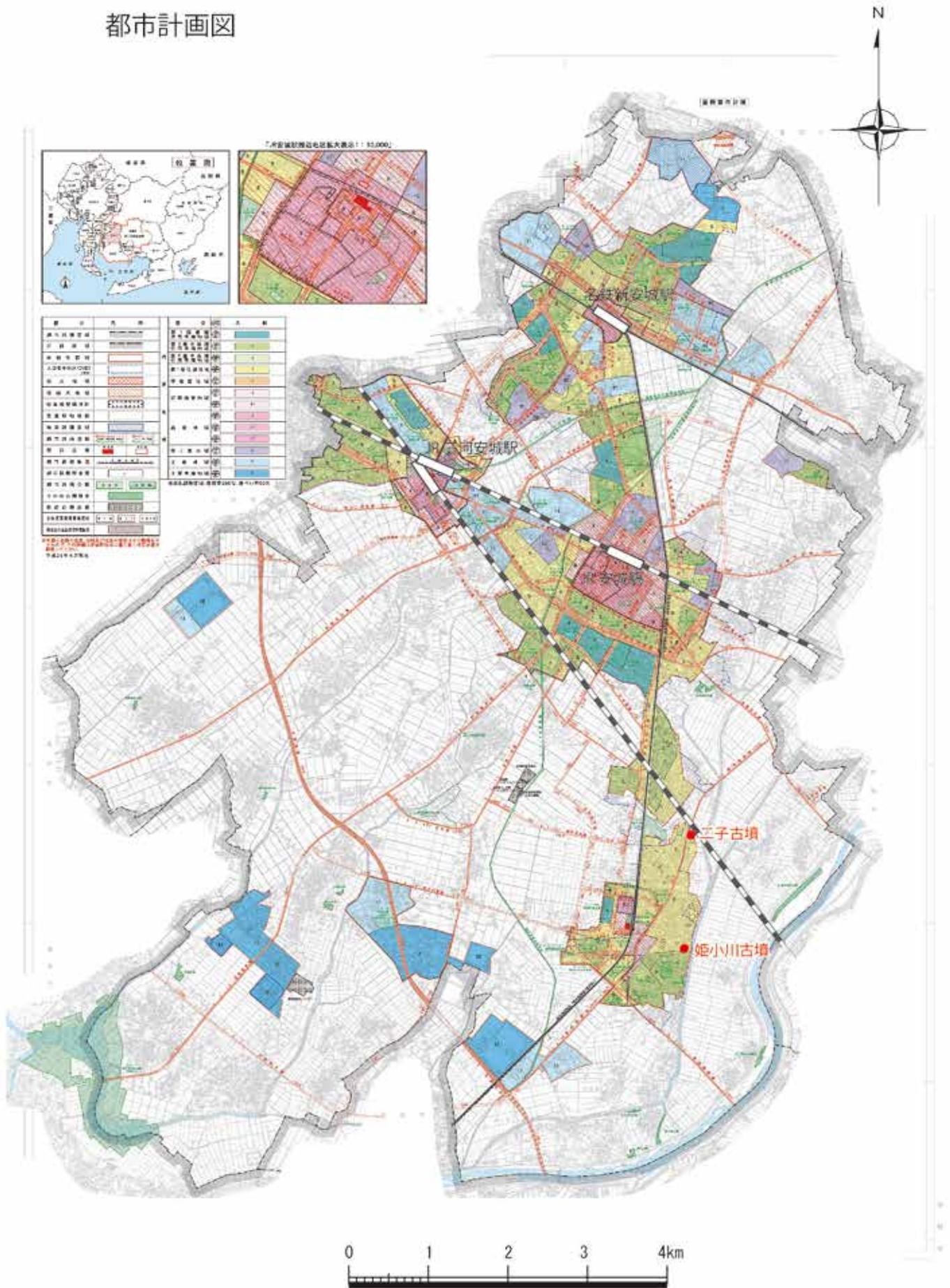
地質図・河川図

凡 例	
-----	行政界
○	沖積層
●	中位段丘層
●	高位段丘層
—	一級河川
—	二級河川
—	準用河川



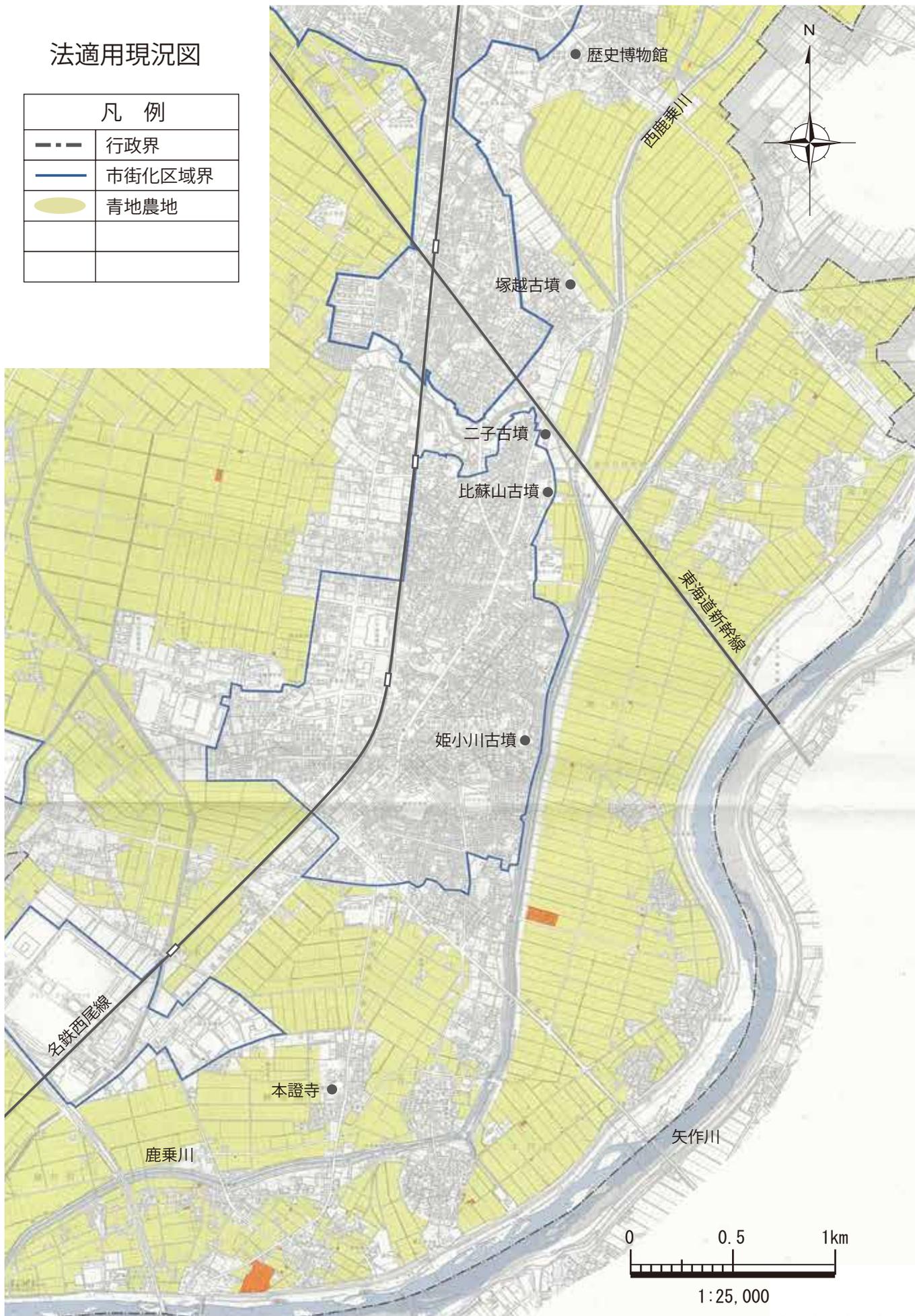
現況図

都市計画図



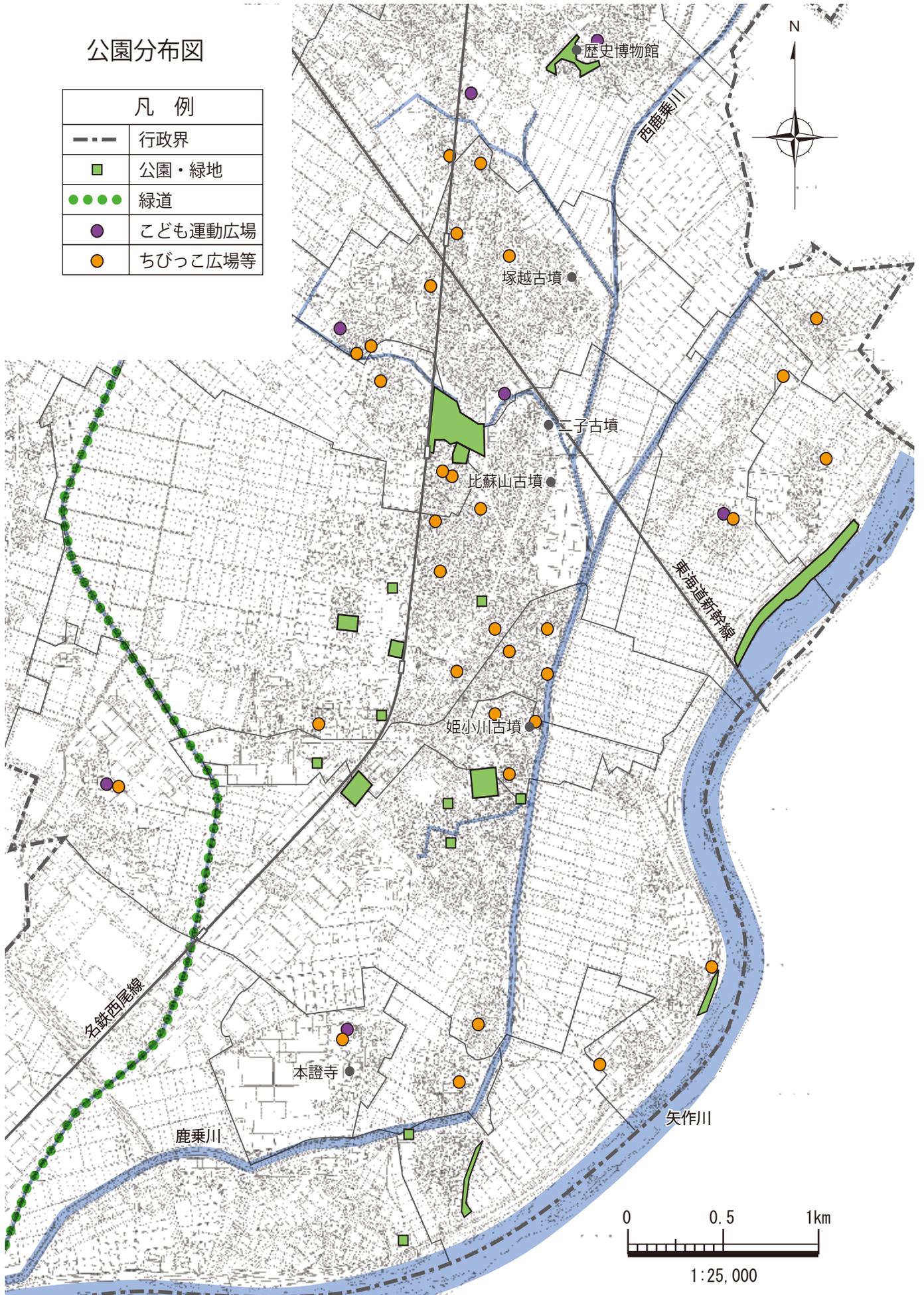
法適用現況図

凡 例	
---	行政界
—	市街化区域界
■	青地農地



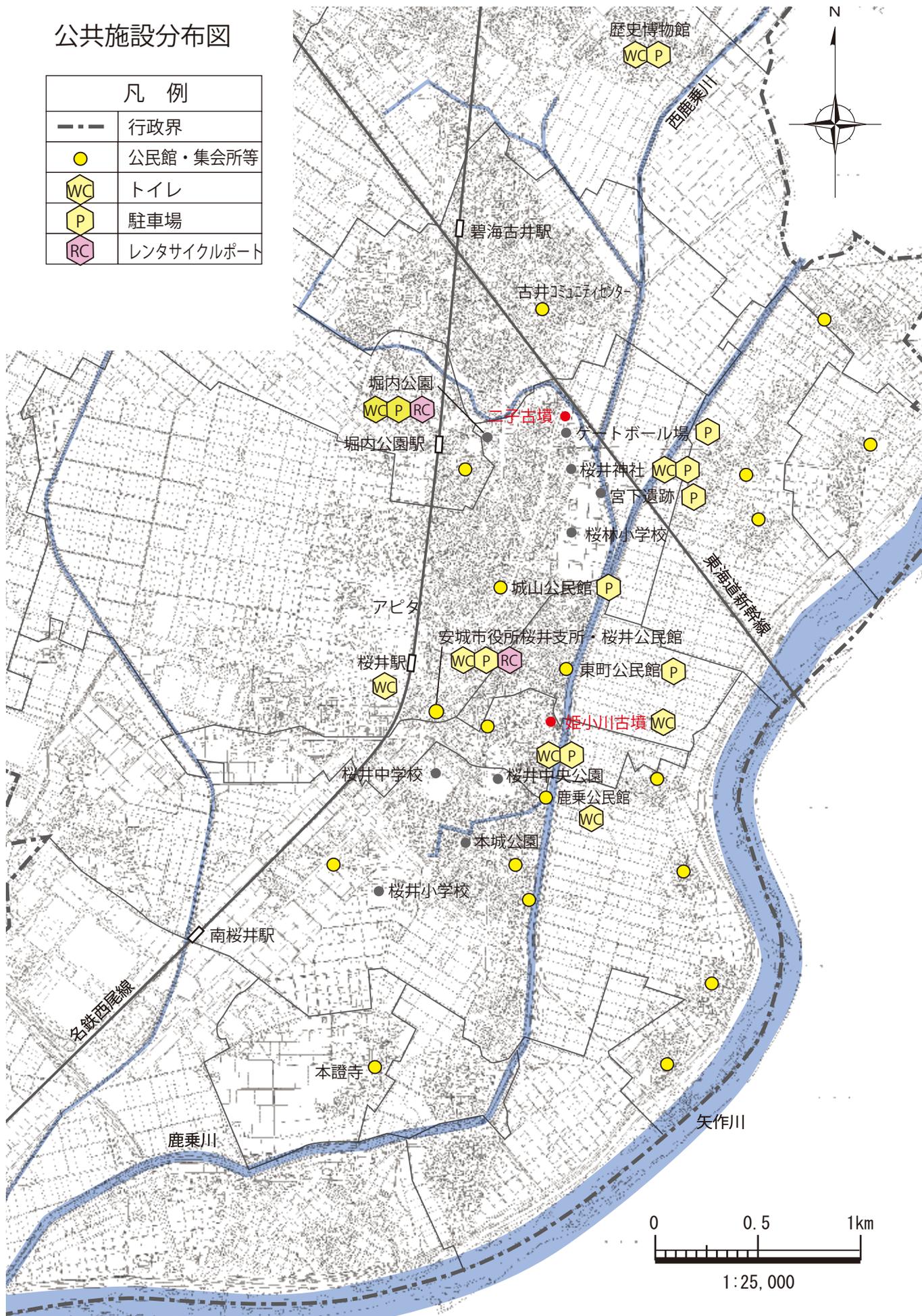
公園分布図

凡 例	
---	行政界
■	公園・緑地
●●●●	緑道
●	こども運動広場
●	ちびっこ広場等



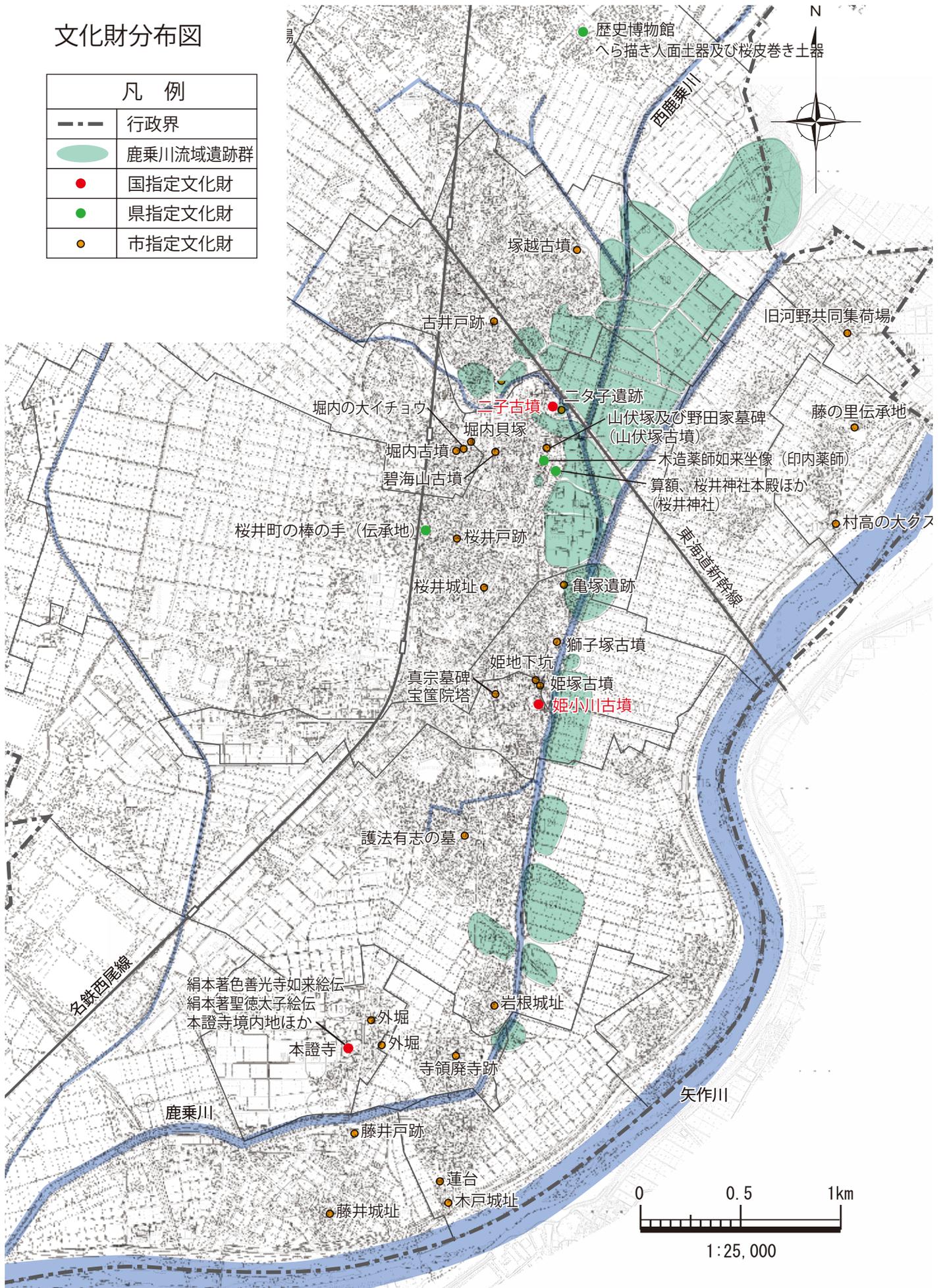
公共施設分布図

凡 例	
---	行政界
●	公民館・集会所等
WC	トイレ
P	駐車場
RC	レンタサイクルポート



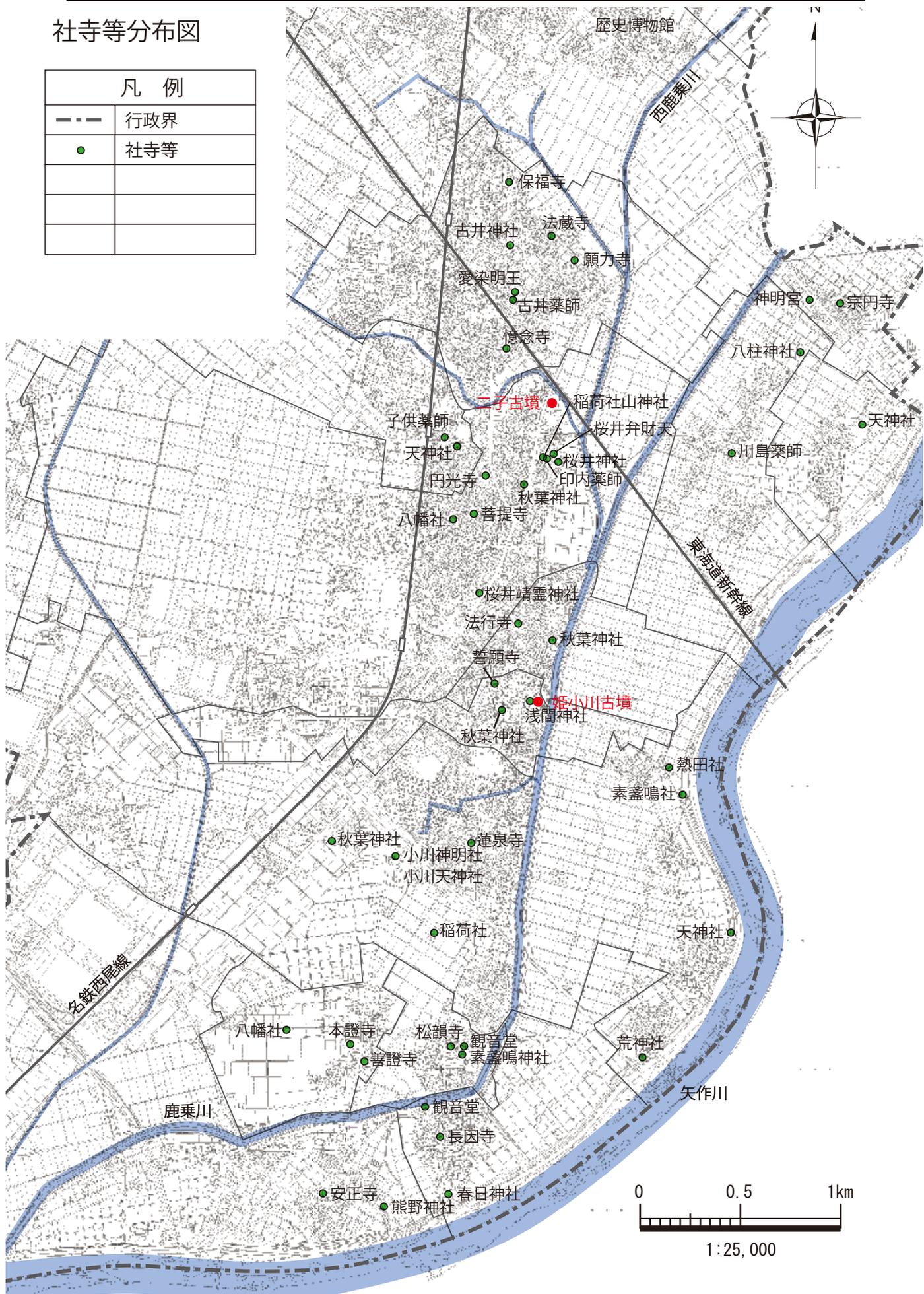
文化財分布図

凡 例	
---	行政区
● (緑)	鹿乗川流域遺跡群
● (赤)	国指定文化財
● (緑)	県指定文化財
● (黄)	市指定文化財



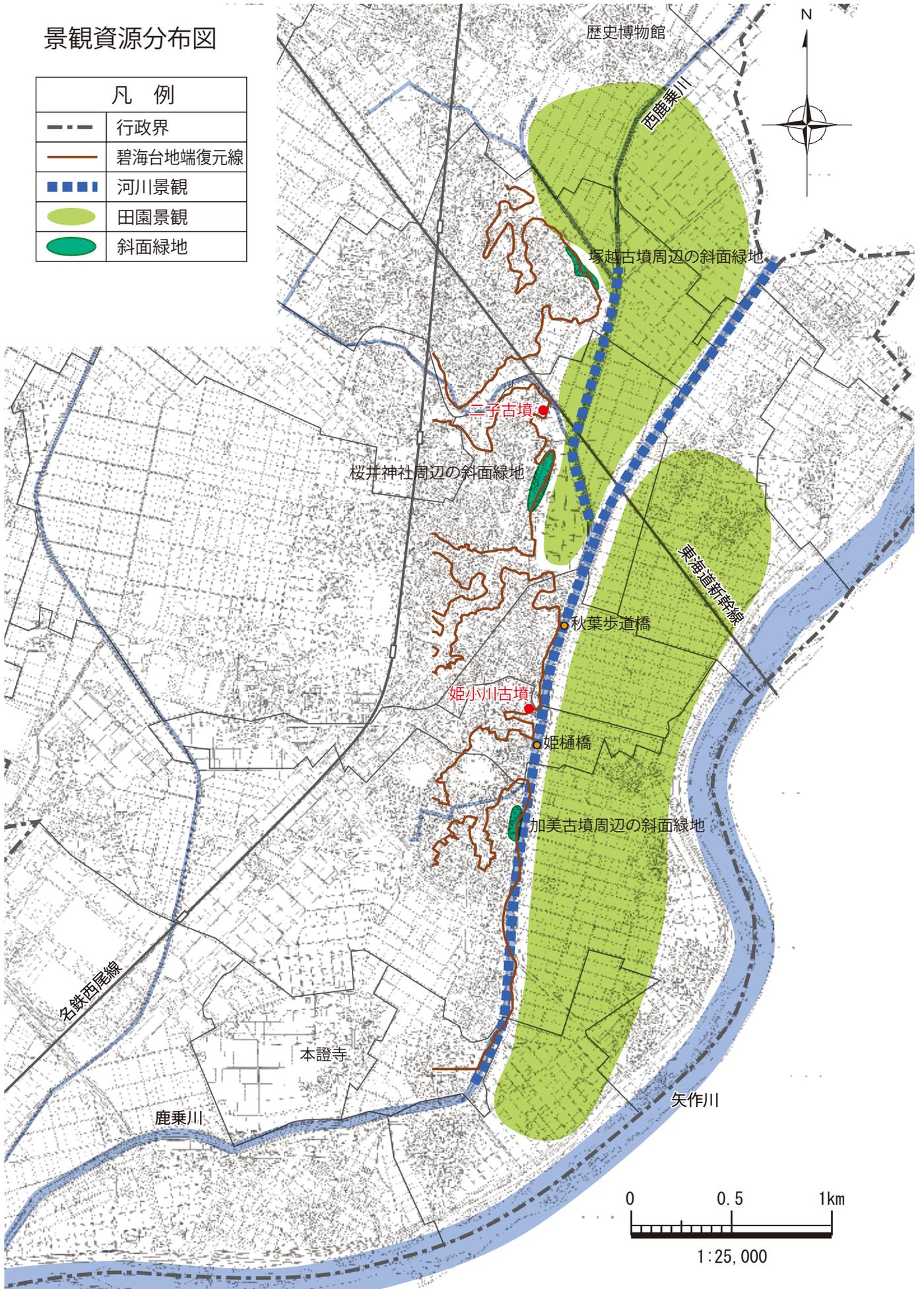
社寺等分布図

凡 例	
---	行政界
●	社寺等



景観資源分布図

凡 例	
---	行政界
—	碧海台地端復元線
■■■	河川景観
●	田園景観
●	斜面緑地



地域資源分布図

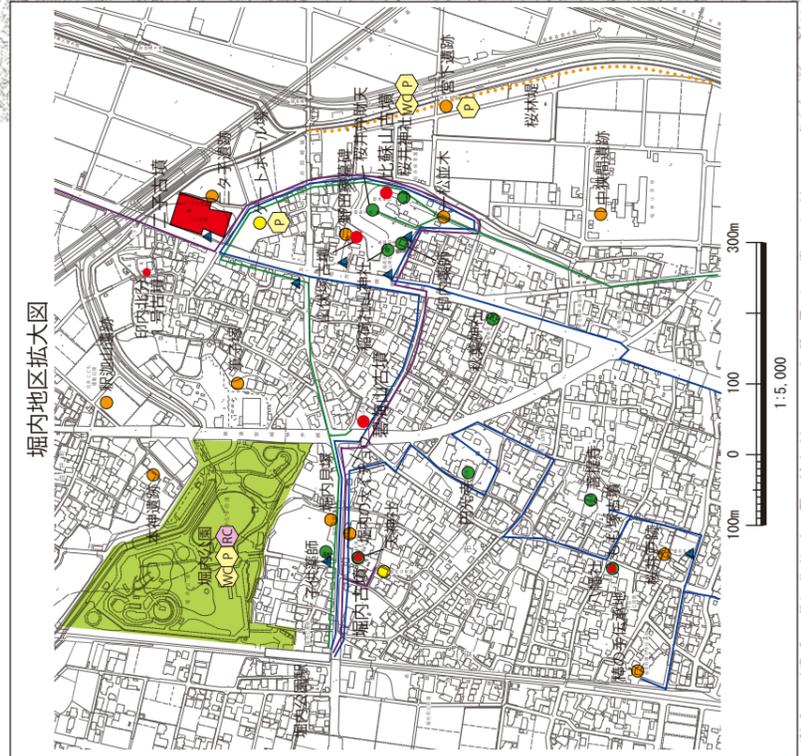
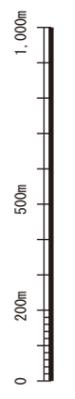


凡例

—	行政界
- - -	あらくるバス (桜井線)
—	碧海台地噴火ライン
●	古墳
●	社寺等
■	歴史遺産
■	公園・緑地
■	公共施設 (公民館等)
Ⓜ	トイレ
Ⓜ	駐車場
Ⓜ	レンタサイクルポート

歴史の散歩道

▲	サイン
—	古井コース (2.5h)
—	堀内コース (3h)
—	桜井コース (4h)
—	本證寺コース (6h)



桜井古墳群保存管理計画書

平成 27 年 3 月

編集・発行 安城市教育委員会
〒 446-0026 安城市安城町城堀 30 番地
安城市歴史博物館内
TEL：0566-77-4477
FAX：0566-77-6600